

「昭和という時代」展 PART II

高度経済成長の時代

令和 7 年は昭和 100 年、戦後 80 年の節目であると同時に、大仙市合併 20 年と合併 8 市町村誕生 70 年に当たる年となっています。その一年の締めくくりとして、本企画展では「戦後」という新たな時代を駆け抜けた大仙市の昭和を、残された公文書や写真から振り返ります。

戦後日本は、朝鮮戦争をきっかけに経済復興を遂げ、東京オリンピック（1964 年）と日本万国博覧会（1970 年）というアジア初の二つの国際的なイベントを経験したことで、インフラ整備と技術革新が進みました。同時に、三種の神器と呼ばれる白物家電や自家用車の普及による生活スタイルの変化がもたらされ、農村では農業の機械化と生産性の向上に伴い労働力の都市部への流出など、農村構造の変化が起こったと言えます。

こうした高度経済成長期における大仙市の発展は、現在の私たちの生活基盤を形成した一方で、戦前から続く地域社会の継続を困難なものとし、新たな地域のつながりを創出してきています。そうした「昭和」の時代に思いを馳せ、現在の私たちの住む大仙市を見つめ直す機会としていただければ幸いです。

令和 7 年 10 月